

## 【自由論題セッション】

### 台湾の FTA 参加と輸出競争力

連 宜萍 (公立鳥取環境大学)

#### 1. 背景と目的

二国間の自由貿易協定 (FTA) の締結や地域間の共同経済体構想が進んでおり、各国は国境を越えた低関税またはゼロ関税の商品貿易や資本・労働力の自由移動という共通の価値観を持っている。しかし、台湾はこうした地域枠組から孤立されている。

台湾はこれまで 8 ヶ国と FTA を締結することができた。陳水扁政権 (2000～2008 年) に、台湾は国交のある国のパナマ、グアテマラ、ニカラグア、エルサルバドル、ホンジュラスと FTA を締結したが、いずれも主要貿易相手国ではない。馬英九政権 (2008～2016 年) になると、中国と「海峽兩岸経済協力枠組協定 (ECFA)」を調印したのち、ニュージーランド (ANZTEC)、シンガポール (ASTEP) との経済連携協定を締結することができた。しかし、台湾は TPP や中国発の一带一路の構想から排除されている。現在、台湾はアジアにおいて第 6 位の経済規模 (世界で第 22 位) を持っているが、主要貿易国と FTA の締結が果たせない結果、今後台湾の経済順位や競争力が低下すると予測されている (竹内 2011、彭 2014)。

そこで、この報告は、FTA 締結は台湾の経済や輸出にどの程度の影響を与えるか、また台湾の輸出競争力に影響を及ぼす主な原因は FTA 締結後の低関税率であるか、について調べる。

#### 2. 分析方法

FTA 締結が台湾の経済や輸出、輸入への効果を確認するために、GDP、貿易、国際投資などの経済指標の推移を概観し、台湾+1 の FTA 締結前後の変化を見る。次に、台湾の輸出競争力変化の要因を確認するために、台湾の主要貿易国、主要輸出品目および主要輸出相手国が設定する関税率などを調べ、輸出競争力の影響要因は FTA 締結に係わる関税率であるか否かを明らかにする。

#### 3. 結果

台湾はパナマ、グアテマラ、ニカラグアなどの国交のある中南米の国と FTA を締結したが、いずれの国も台湾の主要貿易国ではないため、FTA 締結後の経済効果が限定的であると考えられる。

台湾の主要輸出国・地域は中国<sup>1</sup> (40.1%)、ASEAN10 (18.3%) とアメリカ (12%) であり、3 ヶ国・地域への輸出総額は 1,971 億ドルで、台湾の年間輸出の 70% を占める。一方、台湾の主要輸入国・地域は中国 (19.7%)、日本 (17.6%)、アメリカ (12.4%)、ASEAN10 (11.8%) と EU (10.5%) であり、5 ヶ国・地域からの輸入総額は 1,660 億ドルで、台湾の年間輸入の 72% を占める。

---

<sup>1</sup> 香港を含む。

中国は台湾の主要貿易相手国である。台湾の輸出総額の 40%の製品を中国に輸出し、対中輸出のうち特に電機・エレクトロニクス機器類製品(HS85)の比重が高く、55.6%を占めている。また、台湾の輸入総額に占める中国のシェアは 20%程度を占め、特に中国からの電機・エレクトロニクス機器(HS85)と一般機械類(HS84)の輸入シェアが高い。

2010年に台湾は主要貿易国である中国との FTA 締結が実現できた。2010年6月に、台湾は中国と「海峽兩岸經濟協力枠組協定(ECFA)」を締結し、同年9月に発効した。中国が主張する「1つの中国」という原則の下で、FTAの代りに ECFA という名称を使用した。事実では FTA と同様に段階的に対象品目(中国側 539 品目、台湾側 267 品目)の関税率を下げていき、2013年から対象品目がゼロ関税となった。

ECFA 発効後、台湾の中国に対する輸出は拡大せず、ECFA 締結前と同じに総輸出の 40%ほどを占める。しかし、台湾の総輸入に占める中国から輸入割合は 2011年の 16%から 2014年の 18%、さらに 2016年の 20%に成長した。一方、中台間の投資を見ると、ECFA 発効後、台湾の対中国の投資は大きな変化が見られないものの、中国の対台湾投資は 4 倍成長した。

台湾の主要貿易国である中国から見ると、中国の主要輸入国は韓国(10.4%)、日本(9.5%)と台湾(9.2%)であり、中国の輸入総額に占める 3ヶ国の輸入シェアは 29%である。なかでも、日本と台湾の対中輸出のシェアは大きく低下したのに対して、韓国のそれは成長の傾向にある(伊藤 2015)。中台 ECFA は中韓 FTA より 5 年早く発効した。現時点の対中輸出について、台湾は韓国より低い関税率を享受しているが、対中輸出のシェアが韓国に追いつかないことが分かった。

#### 4. 考察

中台間の ECFA は台湾の対中輸出拡大や輸出競争力強化に実質的な効果は大きくないが、2013年に締結した「海峽兩岸サービス貿易協定」は未だに発効していないことは、今後台湾は外国との FTA 交渉がより一層困難になると推測できる。

また、中台 ECFA 発効後、低関税またはゼロ関税で対中輸出ができるようになったが、台湾側から見て対中輸出シェアは拡大しないだけでなく、中国側から見ても台湾からの輸入シェアが韓国のそれに及ばない状況にある。こうした結果から、FTA の締結は台湾の輸出競争力に影響を及ぼす主な要因ではないと判断できる。

#### <参考文献>

1. 伊藤信悟(2015)、「中韓 FTA が台湾経済に与える影響と台湾の課題」、『交流』、公益財団法人交流協会、Vol.893、pp.1-8。
2. 竹内孝之(2011)、『台湾、香港と東アジア地域主義』、日本貿易振興機構アジア経済研究所。
3. 彭漣漪(2014)、「2015年！台湾大限？」、『遠見雑誌』(2月号)、遠見天下文化出版股份有限公司。(https://www.gvm.com.tw/article.html?id=18921、2018年2月21日、中国語)
4. GLOBAL NOTE、(http://www.globalnote.jp、2018年2月23日アクセス)